

阿倍野区将来ビジョン（素案）

～誰もが住みたい 住み続けたいまち『あべの』の実現～

つながる・備える



育む・学ぶ



暮らす・支えあう



令和6年7月

～つながる・備える～

人がつながり、安全・安心とにぎわいを未来につなぐまち

【概要】

「人と人のつながり」を基礎とする地域コミュニティの維持・活性化に取り組むことで、災害に強く、犯罪・交通事故を防ぎ、安全・安心とにぎわいのある魅力あふれるまちづくりをめざします。



【戦略1-1】 つながりのあるまちづくり

【現状と課題】

- ・地域活動協議会による自律的な地域運営に向けて、まちづくりセンターが持つスキルやノウハウを活用することで、取組の増加や自立度は向上していますが、依然として地域活動を担う人材が不足しています。
- ・ライフスタイルの変化等により、地域活動への参加率が減少しています。
- ・地域活動協議会への支援状況により、各地域の実情に即した支援を行うことが必要です。
- ・防災の取組や災害避難時の対応、犯罪や交通事故の未然防止において、地域コミュニティの存続は必須です。

【今後の施策展開の方向性】

身近な地域をつながりを感じることができるよう地域活動協議会の活動支援、町会加入促進を進めます。

また、コミュニティづくりの形成を目的に全区民を対象に、地域活動団体等と協働し、誰もが楽しめる交流の場を提供するとともに、区内外から人が集うまちづくりを進めます。

【成果目標】

身近な地域でのつながりを実感している区民の割合：75%以上



夏祭りの様子（地活協補助金事業）



「あべのほっとカフェ」事業

【戦略1-2】 災害に強いまちづくり

【現状と課題】

- ・南海トラフ巨大地震は、今後30年以内に80%という高い確率で発生が想定されています。
- ・阿倍野区ではすべての地域において「まちなか防災訓練」が行われており、「自助」「共助」が不可欠であることは浸透しつつありますが、若年層の参加が低い傾向にあります。
- ・災害に備えて、日頃の備えができていると思う区民の割合が低い傾向にあります。
- ・町会加入率の低下など、災害直後の地域共助に不可欠である地域住民のつながりを強化する取り組みが必要です。
- ・将来の自主防災組織の担い手となる若年層において、防災知識やスキルの向上が必要です。
- ・日頃の備えの重要性や、マンション等を中心とした在宅避難等の新たな避難方法の周知が必要です。

【今後の施策展開の方向性】

自助・共助などを通じた防災・減災の仕組みづくりとして、区民一人ひとりが家庭内備蓄など日ごろの備えに加え、地域特性に応じた地域の自主的な防災の取り組みが実施できるよう支援するとともに、若年者層への防災意識向上に向けた取り組みを着実に実施します。

また、SNSの活用等新たな情報伝達手段の拡充を図り、災害に強いまちづくりを推進します。

【成果目標】

災害に備えて、日ごろの備えができていると思う区民の割合：60%以上



まちなか訓練（4年度 常盤地域）



ジュニアリーダー訓練

【戦略1-3】 犯罪や交通事故を防ぐまちづくり

【現状と課題】

- 特殊詐欺被害についての手口が複雑化しています。
- 街頭犯罪は増加傾向にあり、引き続き注意喚起が必要です。
- 自転車関連の交通事故や放置自転車の減少に向けた取組みを継続して行っています。
- 特殊詐欺や街頭犯罪等の被害防止に向けて、地域の防犯意識の向上が必要です。
- こどもへの犯罪を未然に防止するため、周囲に対する啓発とともに、こども自身の防犯意識を高める啓発を強化する必要があります。
- 交通事故防止のため、特に自転車に関する交通ルールの遵守とマナー向上の啓発が必要です。

【今後の施策展開の方向性】

事件・事故の被害に合わない、合わせないための意識向上に向け、地域や警察等関係機関と連携し、出前講座の実施や各種広報媒体を使った啓発など、区民の安全を守る取組みを進めるとともに、時節、対象に応じた啓発を行います。

【成果目標】

区役所が警察等と連携して行う防犯・交通安全の各種取組みを総合的にみて、街頭犯罪抑止や交通事故防止に役立っていると感じる区民の割合：80 %以上



小学校での交通安全教室



地域会館での防犯出前講座

【戦略1-4】 魅力あふれるまちづくり

【現状と課題】

- ・都市景観資源や「大阪市あきないグランプリ」入賞店舗など、区内の魅力的なスポットを「あべの dakara (宝)」として掲載した「あべのおさんぽ map-にぎわい版-」の発行や、HP などを活用した情報発信を行っています。
- ・地域団体による魅力創出イベントなどが数多く開催されており、地域の活性化に関する取組が盛んに行われています。
- ・「阿倍野区が魅力あるまちである」と感じる区民の割合を高める必要があります。
- ・にぎわい創出に向け、区内外へ阿倍野区の魅力をさらにアピールすることが必要です。

【今後の施策展開の方向性】

区内外から人が集い、にぎわいあふれるまちづくりを進めるため、区内にある都市景観資源等を「あべの dakara (宝)」※として積極的にアピールするなど、誰もが自慢したくなる魅力情報の発信に努めるとともに、区内全域の回遊性を高めます。

さらに、地域団体や企業等が主催するイベント等を支援し、地域と共にまちのにぎわいづくりに取組みます。

※景観資源や商店街などの魅力資源、魅力あるお店や商品、区内外に誇れる企業などを、あべのお宝という意味を込めた「あべの dakara (宝)」と命名

【成果目標】

地域住民・企業等との協働によるにぎわいづくりの取組みにより「魅力あるまちとなっている」と感じる区民の割合：70%以上



～育む・学ぶ～

こども・若者たちがのびやかに成長できるまち

【概要】

ニーズを的確にとらえた子育てしやすいまちづくりと学校教育のサポートをめざし、保護者・地域・学校園が連携し、こども・若者たちを健やかに育む取組みを支援します。



【戦略2-1】 全てのこどもたちが幸せに成長できる、子育てしやすい環境づくり

【現状・課題】

- ・少子化・核家族化が進む中、地域のつながりの希薄化等により、保護者が子育ての不安や悩みを抱えたまま孤立するなど、こどもとその家庭を取り巻く状況は大きく変化しています。
- ・保護者は様々な問題や悩みを抱えており、それらが子育てに対する保護者の負担感、不安感に繋がっています。また、こどもたちも学校に馴染めない等の様々な悩みを抱えています。
- ・児童虐待の相談対応件数が増加し、内容の複雑化・深刻化が進んでいます。
- ・子育て支援ニーズは複雑多様化しており、そのニーズにきめ細かく対応する必要があります。
- ・児童虐待等の相談対応をするためには、教育機関や児童福祉機関等と連携し、児童虐待の防止、早期発見、アフターケア等、各々の段階に応じた施策の総合的な展開が必要です。
- ・妊娠期から子育て期までの切れ目ない相談支援を行うため、個々に応じた助言や指導を行い、相談者一人一人に対する安定した支援の継続が必要です。

【今後の施策展開の方向性】

引き続き、多様化する子育て世代のニーズに対応した各種事業を継続して実施します。また、児童虐待や不登校など悩みを抱える保護者やこどもたちに対し、専門技術や知識を有する職員を配置して相談体制を充実するとともに、教育と福祉との連携等、関係機関と連携しながら効果的な支援に努めます。

【成果目標】

安心して子育てしやすく、子ども・青少年が健やかに育つ環境があると感じる区民の割合：75%以上

【戦略2-2】 時代の変化に対応した学校教育の推進

【現状と課題】

- 区内の小中学校について、学力は全体的に高い水準にありますが、体力については全国平均に近づいているものの、全国平均を上回る状況ではありません。
- 区内の小中学校への諸外国からの転入者が増えておりグローバル化が進んでいます。
- 「生きる力」を育む要素とされている学力と体力の向上は、本市教育行政の最優先課題の一つでもありこどもたちの利益のために重要です。
- グローバル化が進み多文化共生が求められる社会において、国際共通語である英語力を身に付けることはこどもの可能性を広げることにともつながり重要です。

【今後の施策展開の方向性】

小中学校が教育委員会と共に実施する取組みに加え、市内では高い水準にある学力のさらなる向上や過去と比較して低下している体力の向上を支援するとともに、一段とグローバル化が進むと見込まれる将来を見据えた英語教育支援や、文化芸術に関する教育活動などさまざまな体験ができる教育環境をととのえ、こどもたちのステップアップを支援します。

【成果目標】

各教育支援事業の取組みが有効であると感じる、保護者等の割合：80%以上



運動指導員派遣の様子



あべの子育てマップ

～暮らす・支えあう～

誰もが自分らしく幸せに暮らし続けられるまち

【概要】

阿倍野区に暮らす、すべての人々が住みなれた地域で、人として尊重され、お互いが支えあい、自分らしくいつまでも安心して幸せに暮らせるまちをめざします。



【戦略3-1】みんなで支えあう地域づくりと相談支援体制の充実

【現状と課題】

- ・地域で支えあう力が重要ですが、少子高齢化の進展や世帯構造の変化により、地域のつながりが希薄化しています。
- ・区の福祉的ニーズが年々増加し、「複雑化・多様化・深刻化」しています。
- ・阿倍野区がめざしている「地域住民が主体となって、地域ごとの特色を活かした地域福祉活動が進んでいると感じる状態」について、これまでの取り組みによる成果が出ています。
- ・地域福祉活動の参加について、参加しやすい身近な活動の啓発など、引き続き参加を促す取り組みを行っていく必要があります。地域の特性に応じた福祉課題を把握し、ニーズに合った福祉サービスに迅速につなげられるよう、日頃の見守り活動とさらなる地域住民同士のネットワーク強化が必要です。
- ・各地域における要援護者や複合的な課題を抱える世帯の増加が見込まれる中、身近な地域での支援体制の強化が必要です。
- ・複合的な課題を有する人や世帯への支援は、施策分野ごとの体制では十分に対応できないため、分野横断的かつ包括的に相談・支援を行う体制が必要です。

【今後の施策展開の方向性】

引き続き地域にかかわるすべての人や団体等が、誰もが幸せに暮らせるまちをめざして連携・協働して環境の変化に応じた地域福祉活動に取り組むとともに、地域の包括的な支援体制の充実に努めます。

複合的な課題を有する人や世帯に的確に対応するため、様々な施策分野の相談支援機関や地域の関係者の連携を強化するとともに、総合的な支援調整の場（つながる場）や支援会議のしくみ等を活用し、適切な支援につなげていきます。

※地域福祉についての取り組みの方向性を取りまとめた「阿倍野区地域福祉計画（令和3～6年度）」の見直しに着手し、令和7年度から新たな計画に基づき取り組みを進めます。

【成果目標】

地域で支援を必要としている人に必要な支援が行き届く地域社会になっていると感じる区民の割合：45%以上

【戦略3-2】 地域ぐるみで、誰もが元気に暮らせる健康づくり

【現状と課題】

- ・健康寿命を延伸するためには、生活習慣病の改善・早期発見、早期治療が必要とされています。阿倍野区の特定健診の受診率は、大阪市内では一番高いものの、国や大阪府の受診率と比べると低い数字です。
- ・区民に対して健康増進や生活習慣病予防、疾病に関する正しい知識の普及・啓発が必要です。
- ・健康づくりの一環である運動「あべのウォーク」や介護予防を目的とした「いきいき百歳体操」、子どもの保護者向けの「食育事業」等を推奨することで健康づくりの機運をこれまで以上に高めることが必要です。
- ・各イベントの参加者が固定化しており、若年者層を初めとした新規参加者を促す取り組みが必要です。
- ・区民の健康づくりを主体的に担っていただける人材について、人材の確保と知識や意識の向上を行うことが必要です。

【今後の施策展開の方向性】

引き続き、誰もがすこやかに心豊かに暮らすことができるよう、区民一人ひとりの健康意識を高め、主体的に健康づくりに取り組めるよう支援し、健康寿命の延伸に努めます。

また、健康づくりイベントの参加者拡大に向けたより効果的な情報発信を行うとともに、イベントの担い手に対する意識の啓発と知識の向上に努めます。

【成果目標】

運動習慣がある35歳以上の区民の割合：40%以上



認知症への理解を深める



あべのウォークの様子